

ふりがな 氏名	みやざき さやか	都道府県	神奈川県	
	宮崎 紗矢香			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> 立教大学社会学部社会学科 Fridays for Future Tokyo オーガナイザー 			
関心・活動のSDGs	  			
私のESD活動	Fridays や子ども食堂の場で持続可能性について呼びかけを行っている			

活動の概要

今年の2月にスウェーデンSDGs視察ツアーに行き、現地で見聞きした事例を元に就職活動では企業に上辺だけでない環境対策を求めたが、否定的な態度で返された。そんな折に知ったグレタ・トゥーンベリの言葉が私の人生を大きく変えた。大人の顔色を窺って内定を目指している暇があったら、自分たちの未来に向けて気候変動の危機に立ち向かう必要がある。それ以後、大学では「環境教育論」の授業の影響で立教大学の運営方針に異議申し立てを行った。雨の日の傘袋、購買のプラに溢れた弁当容器、大学ロゴ入りのペットボトルなどについて、総務課に直談判を試みたがあくまで保守的な対応で返された。大学が謳うエコキャンパスとはほど遠い現実を学生にもプレゼンで伝えたが、その反応も予想以上に薄く、中には「何も思わなかった」というコメントがあり言葉を失った。そこで一旦、大学を離れ大学外のコミュニティに足を運んだ。その過程で、グレタのストライキに共鳴した日本の若者で結成された、Fridays for Future Tokyoの集まりに行き着いた。今は、9/20のグローバル気候マーチに向けて学生オーガナイザーの一人として関わっている。また、大学1年から参加する子ども食堂のボランティアに通い続けることで、生活者の立場を忘れないようにしている。私は誰かに求められた答えを探すより、求める自分を選んでいく営みの中にESDがあるのではないかと思う。

- ・Fridays for Future 9/20 グローバル気候マーチ HP <https://ja.globalclimatestrike.net/>
- ・IKEBUKURO TABLE anan 掲載記事 <https://ananweb.jp/news/220133/>

私が考える教育の未来像

来年、私は就職せず北欧のフォルケホイスコーレに通う予定だ。17歳以上なら誰でも入学することができ、試験や成績評価などは一切ない。資格を取得することもなく卒業証書をもらうこともない。主眼が置かれているのは「対話」だ。共同生活をし、関心のある科目を学びながら、世界中から集まる人々が自分の生き方を考える場である。私はこのような、生涯教育の形が自然発生的に広がっていくと考える。変化の激しい時代だといいつつながら、柔軟性を欠いた中身のない大学が日本には多い。それは学生のモチベーションに限らず、固定化され過ぎた制度にもよるのではないか。アカデミックに固執しない、門戸の広い学びの場が生きた教育の道を作ると思う。

私の強み、活かせる経験やスキル

私の強みは、「課題を正しくやりすぎること」だ。求められた課題に常に誠実に取り組み、そのうえで自分のオリジナリティを付け加えることを怠らない。高校時代は演劇部で部内に一人の専属演出を務め、67人の役者の演技指導をしていた。大学2年次では、オーストラリアで日本語教師の海外インターンを行い勉強の意欲が低い中高生に対して、アシストに留まらず自ら授業を企画し主体的に学ぶ面白さを伝えた。また、大学3年次に「学生アクションラーニングコーチ」の資格を取得し、チームを構成するメンバー各々の持ち味を質問によって引き出しながら、課題解決に導くトレーニングを重ねてきた。大学では現時点で、学部内成績一位を維持している。